

- 要がある。
- (2) 国際学術交流のための支援の充実
- ① 学術研究機関の整備等  
新しい知識の創造と発展は、優れた研究者が集い、切磋琢磨するところから生まれるものであり、研究者の未知への挑戦に対して最も適切な施設・資金・支援システムなどの研究環境を提供することが必要である。したがって、全世界の研究者が日本で研究することに魅力を感じ、充実した研究生生活を送れるように、学術研究機関の整備及び適切な運営を図るべきである。
- ② 来日研究者・留学生への支援の充実  
学術分野における国際貢献の第一歩として、各国の人材育成への協力、とりわけ来日研究者・留学生の支援に十分な配慮がなされなければならない。したがって、内外における日本語教育の充実や、来日研究者・留学生の住居、日本人研究者・学生や地域の人々との交流を可能とする交流施設など生活・文化施設の整備・充実を早急に図るべきである。
- ③ 海外派遣研究者への支援の拡充  
国際学術交流は、相手国の国情に応じた総合的配慮の下に行われる必要がある。したがって、その国の研究者との恒常的な連携・協力を維持するとともに我が国からの海外派遣研究者が必要とする各種情報の提供や連絡・調整などもできる人材の当該国への配置など、海外派遣研究者の支援体制の拡充を検討する必要がある。
- (3) 学術分野における国際貢献のための新しいシステムの構築  
国際的な学術協力については、我が国においても、

既に多くの機関がその努力を重ねているところである。しかしながら、投入されている資金等そのための支援は、質・量ともに、未だ国際的な要求に応える水準にまで達しているとは言えない。しかも、現在個別に推進されている学術協力の相互の連絡・調整は、必ずしも十分ではなく、我が国の総力を挙げてこれを推進しているとは言えない状態にある。

また、今後ますます増えていくと思われる各種の国際的な学術協力プロジェクトの立案や協力、参加、推進については、これまで以上に、科学者の総意を反映しつつ、総合的かつ適切な判断を機動的になし得る場を確保しなければならない。

さらに、我が国が国際的な学術協力のための諸施策を強力に推進するためには、科学者の力のみならず、政府・産業界の協力、更には国民の理解等総合的な支援が必要である。

これらの問題点を改善し、学術分野において国際社会の期待に応える貢献をなし得るように、国民の理解の下に、諸課題の整理、必要な資金の確保・配分等を行う新しいシステム（例えば「学術協力機構」）を構築するなど、今後真剣に検討を進める必要がある。

#### 終わりに

日本学術会議は、人類共通の資産としての学術の発展こそが人類の繁栄と世界の平和の礎となるとの見地から、本提言を取りまとめたものである。

なお、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、内外の科学者を始め、広く関係各方面の意見を聴きながら、具体的な諸課題について引き続き検討していくことを付言したい。

## 天体発見報

### ◎特異天体 1993 FW の発見

IAUC 5730 によると、カリフォルニア大学バークレイ校の J. リュウとハワイ大学の D. ジェウィットは次の場所に、ゆっくり移動する暗い天体を発見した。

1993 UT 3月28.41684

赤経 (2000.0) 12時27分06.31秒

赤緯 -03度00分12.7秒

R光度 22.8

スミソニアン天体物理学センターの B. G. マースデンは、この天体の暫定的な軌道を次の様に見積もった。

Epoch=1993 Mar. 14.0 TT Arg. lat.=359.468  
Node=187.896 2000.0  
a=42.451 AU Incl.= 8.029

この軌道要素は、1992年に発見された a が冥王星より大きい 1992 QB 1 に似た軌道を示している。

### ◎南の魚座アルファ星にディスクを発見

IAUC 5732 によると、南の魚座  $\alpha$  星 = ホウマルホウトにディスクが発見された。このディスクの長軸は位置角 100 度の方向にあり、長軸と短軸の比は 2:1、大きさは 1 分角だという。ホウマルホウトの距離を 6.7 パーセクとすると、450~500 AU の大きさになるという

1993年3月31日 香西洋樹

### ◎種類：新星

NOVA AQUILAE 1993 (IAUC No. 5791) わし座

発見者：山本 稔 (愛知県岡崎市土井町)

発見日時：1993年5月14日15時16分~18分 (世界時) の写真から

発見位置：赤経 19時10分31秒、赤緯 +01度28分 (1950.0) 報告位置

発見時等級：7.6等 (写真)

発見方法：8 cm 望遠鏡に同架した 200 mm 望遠カメラのフィルムからプロローニースイズフィルムに T-Max 400+ POO フィルター使用

1993年6月10日 佐々木五郎 (国立天文台)